

# ぱない物語



DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止

**Presented by**

**RoriE-Go**

**In 2013 WINTER**



『お兄ちゃんお兄ちゃん  
ねえねえーっ。聞いた聞いたー？』  
朝食を終えリビングでくつろぐボクに  
今日も今日とて、ちっちゃい妹が構ってと  
言わんばかりにまとわりついてきた。

『なんだよいったい。』

またアレか。

おまえらファイヤーシスターズの

月例活動報告と言う名の自慢話か？

それとも武勇伝と言う名の暴力行為の自供か。

どちらにしても僕は、そんな時間の浪費に

つきあう気はさらさら無いぞ。』

『ちがうよ。もーっ。』

あのさ。

出るんだって。』

『出るって何が。』

コレーっ！と両手首をだらんと下げて突き出す

ちっちゃい方の妹。

ちよつとかわいい。

ページの都合からボケたい気持ちを必死に押さえて  
答えるが

『幽霊……か？』

『あつたりー！』

いいねいいねえ。サクサク話が進んでいいねえ。』

『幽霊ってどんな幽霊だよ。』

『それがねえーなんとっ  
超絶かわいい金髪ロリなんだっつて！』

『……………ほほう。金髪ロリ。』

僕のアホ毛がピクつと反応した。

『なるほど。喜べ。』

お兄ちゃんが可愛い妹の与太話につきあつてやる

気になったぞ。

とりあえず、5W1Hに従って情報開示を願おうか。』

『それがねーここ数日の話なんだけど

深夜のミスドに、その超絶金髪ロリっ子が

出没するんだって。』

『……………ほうほう。深夜。』

つまり日の出でない時間帯にミスド。

あの甘いカラフルな輪っかを多数陳列販売でお馴染みの。

深夜営業対応の人気チェーンで。

店舗にその金髪ロリが出没すると。

なーるーほーどーねー……………』

『どしたのお兄ちゃん？』

『いやーべーっーにー』

そういうボクは足下の影を

少し強めに何度も蹴っていた。

では娘  
このゴールドデン  
チョコレートと  
ポンデリングを頼む。  
あ、それと  
アイスティーを所望じゃ。

はっはい  
ではご注文は  
以上でよろしい  
で：

あ、いや待て。

ポンデリングは  
取り消しじゃ  
代わりに期間限定の  
ポンデ・ライオン  
もなかアイスに  
チェンジで頼む。

はっはい  
かしこまりました。

ねえーっ  
ちよつと見たあ!?  
あの娘っ!!

超絶ヤバく  
ないー!?

肌なんかもう  
雪みたい  
真っ白っ!!

お人形さん  
みたいって  
あーいうのよ  
ほんつとに。

ブロンドの髪も  
マジ金色よ。  
輝いてたっ!!

!!!

ただなんか  
言葉遣いは  
ちよつと：

うん、  
なんかちよつと  
時代劇っぽ  
かったね

うん…  
なんか  
ちよつと…

時代劇っぽいって  
いうか…  
お爺ちゃんか  
お婆ちゃんか  
ぽかったね

# ぱ な い 物 語

冴樹高雄

お…お嬢ちゃん  
一人かい？  
こんな時間に…

見ての通りじゃ。  
おぬしの目には  
儂の横に誰か  
おるように  
見えるのか？

あ…いや  
その…

それに  
『こんな時間』  
とは申すが  
儂にとって  
今の時間は  
昼と同じじゃ

お主の勝手な  
常識で物事を  
計りそれを  
押しつけてくるのは  
甚だ迷惑じゃな

い…いや  
でも、危ないよ。

子供が独りで  
こんな時間  
出歩くのは…

危ない…か

それはアレか

お主のような  
ロリコンが  
ウヨウヨして  
おるからか？

ななな  
何を言っ…

バレバレじゃよ  
お主のような  
人種はニオイで  
解るわ。

上手く  
誤魔化せると  
思っておるのは  
本人達だけじゃ  
覚えておくがよいわ。



あ…  
えーっと  
ミスド好き  
なの…？

うむ。  
この世の  
楽園じやな  
ここは。

できようものなら  
ここに住みたいと  
思っておる。

そ…そう  
なんだ。

ねえ  
何かまだ  
食べたい  
ドーナツある？

奢って  
あげようか？



……

れっか…

今なんと  
申した…？



お前…

いいヤツ  
じやなっ♡



奢る…  
というのは  
何か…

儂が手持ちの  
無さから諦めた  
ポンデリング

あ…いや  
その…

並びに  
できようことならと  
切望しておった  
フレンチクルーラー  
オールドファッションの  
代金を肩代わり  
してもよいと。

そう申して  
おるワケか？

なるほど  
のう…



お兄ちゃんが  
いつでも奢って  
あげるからね

大変だねー  
でもよかったら  
ドーナツくらい



そう…  
忍ちゃんって  
いうんだー

我が主様って  
…えーと  
保護者さん  
…かな？

お小遣いも  
あまりくれない  
ってことかー



さつ さつ



ほっぺ…  
ついでによ…

あっ…



美味しい  
かい？

んー  
最高じゃな

奢って貰う  
ドーナツ程  
美味なもの  
はないのー





あーアレか。どうも窮屈でいかんからな



まったく…  
人間のオスと  
いうのは性欲に  
馬鹿正直  
じゃな…

そうそう  
そのまま  
足開いてて

も…  
も…  
も…  
ちよつと  
良く見せて

こ…  
こんなの  
貼ってたら

か…かぶれ  
ちやうから  
はがしたげる  
から…

ん…

そのまま  
じっとしてて

まあ…  
たまには  
情事にふけるのも  
悪くはないかの

いい子  
だからね…

舐めて  
きれいに  
あげるから

……

!

※忍ちやんイヤー発動中

ちよっ  
ちよっ  
奥の席っ

やだっ  
ヤバイって

警察っ  
警察呼んだ  
方がいいよっ

しょーがない  
騒ぎになるのも  
面倒じゃしな

ま。  
この程度の  
結界で十分  
じゃろ。

……



まてまて。  
がつつくな。

折角じゃ  
儂がもつと  
萌えるシチュ  
にしてやるわ

えっえ？  
何それ？



ねえーねえーっ

忍のおまんこに  
そのおっきいの  
入れてくれるー？

こういうのは  
『浮気』とか  
『不倫』という  
ことになるのか  
のお...

我が主様よ。

お兄ちゃん♡



あつ…  
ありがとう

ありがとう  
忍ちゃんっ♡

あつ…



あつ…あー…  
入ったあ  
おまんこに  
入っちゃったよっ

忍ちゃんの  
小さな  
おまんこに…

ちゃんと  
入ったよっ

きつくて  
大変だったけど  
ちゃんと入った  
よおっ

……



あーっキツくて  
せまくって…

全然  
根元まで  
入らないよ

じゃあ  
動かすよー

……



んんあっ

はあっ

んはあっ

はあっ

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ



ん...ぐう

ふうぐう

う...ぐう

まったく...  
男という  
生き物は  
本当にかさつで  
乱暴じやのう...

ぬちゅ

ぬちゅ

こやつ  
分かって  
おるのか  
の！

今、盛んに腰を  
振っておる  
自分の腹の下  
にいるのが

ふあーっ

自分の体重の  
四半分以下の  
幼女という  
ことを...

出すよっ  
忍ぢゃん

出すよーっ

んあーっ

あっあー

ああーっ

ふーやれやれ  
しかし儂が  
本物の幼女  
だったなら...

んあ...

あー  
忍ちゃんっ

最高だった  
よーっ

確実に  
窒息死して  
おるわい

んう...

むうぐう...

おっ...

はう...

おう...

あ。  
未熟な性器に  
強制挿入された  
時点でもう  
アウトかのう

まあ折角じゃ  
もう少し  
つきおうて  
やるかの





んあっ

ああー

おっおっおー

ふーっ。  
やっと  
三回目終了か。



あー！..  
忍ちやんっ

まだ平気っ？

ボクまだ  
全然満足でき  
ないよー

ふー..  
さすがに  
こりや一人では  
身が保たんなあ



うわっ  
何じゃこの量は  
どんだけ溜め  
こんでたんじゃ  
こやつ。

あー忍ちやんの  
おかげで  
ほらこんな  
いっぱい  
出ちやったよお



...



どーしたの？  
忍ちゃんっ

少し  
疲れちゃった  
かなあ？

ポクポク

ポクポク



こいつ。  
本当に  
正真正銘の  
真性じゃなあ。

ポクのが  
ちやんと入って  
いっぱい  
拡がってるよー

……



ほらあ  
見てっらんっ

忍ちゃんの  
小っちゃい  
まんこ……

うわっ  
なんじゃ  
こいつの  
チンコ

ほらほら  
見てっ

あんだけ  
出してまだ  
全然固い  
まんまじゃぞ



こうすると  
おっぱい  
ぷくっとした  
みたいだよー

……

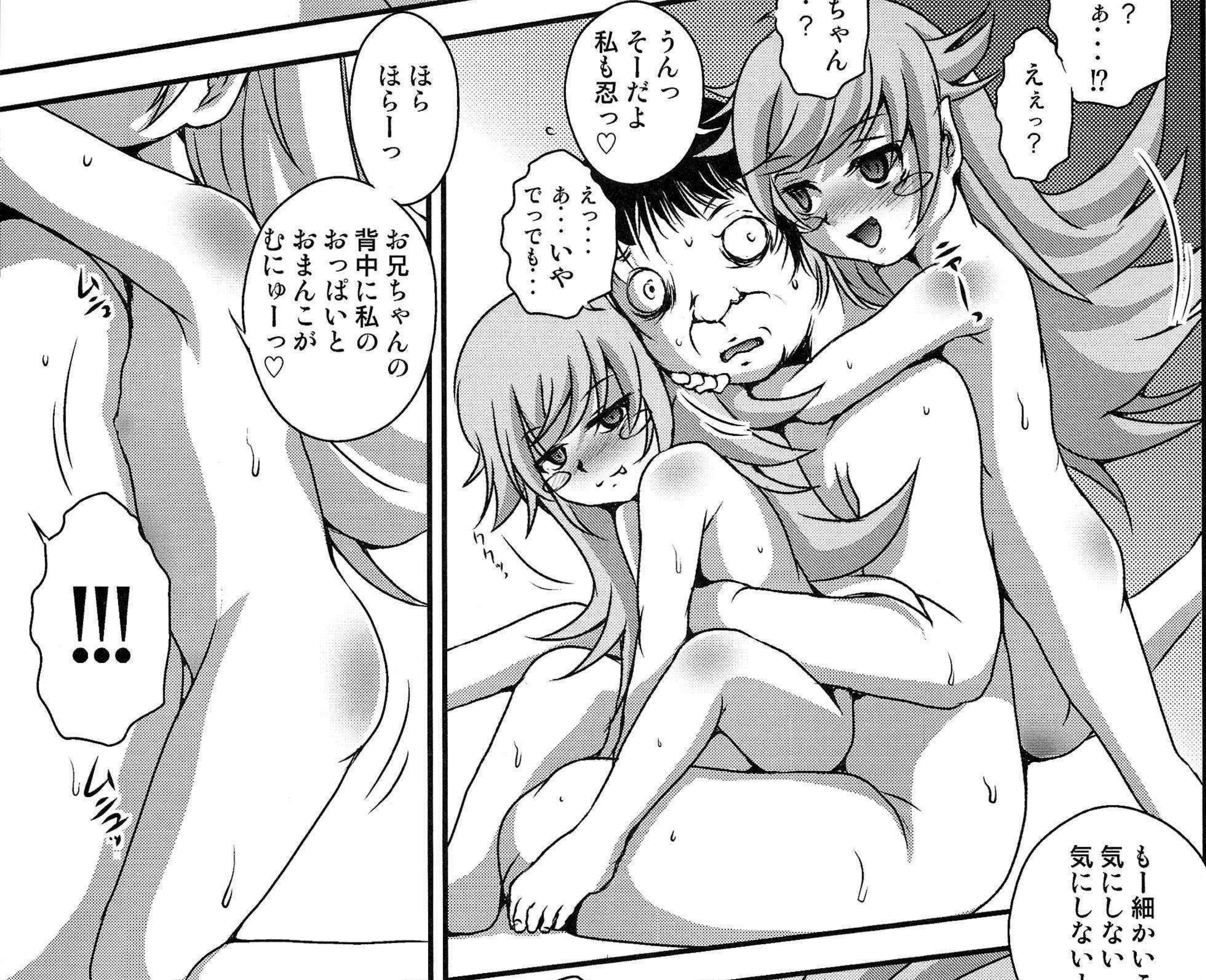


どれどれー？

見せて  
見せてー♡

!?

だまろ



えっ？  
あっあ...!?

ええっ？

忍ちゃん  
...？

うんっ  
そーだよ  
私も忍っ♡

えっ...  
あ...いや  
でっでも...

ほら  
ほらーっ

お兄ちゃんの  
背中私のお  
おっぱいと  
おまんこが  
むにゅーっ♡

!!!

もー細かいこと  
気にしない  
気にしないーっ



え...う  
あう...

そうそう  
いっしょに  
気持ちいい  
ことしよっ

お兄ちゃんっ♡



ああっつ  
幸せだあ

もう  
夢みたい  
だよお

金髪幼女が  
裸でボクに  
懐いてる  
なんて

しあわせだあ  
もう死んでも  
いいよおー

そうそうっ  
ほらっ  
お兄ちゃん  
早くーっ

お兄ちゃんの  
チンチンまた  
忍のおまんこに  
入れてー♡

もっ  
お兄ちゃん  
大袈裟なん  
だからーっ

私もーっ♡

まいった  
のおー  
こやつ…

性欲底なし  
じやな…

あー  
忍ちゃんっ

大丈夫っ？  
ぼくまだ  
全然いけるよっ

……

おまんこツライ？  
じゃあ今度は  
お尻の穴で  
しようか？ ね？

まあ。  
これも一興  
じやな。

さて。  
仕方ないの  
もう一人…

『ちがうのじゃ。』

聞いてくれお前様よ。

そんな一方的に感情をぶつける前にまずは  
まずは儂の話の話を耳に入れてからでも遅くはあるまい。』

『ふむ。なるほど。』

僕は慈悲深くまた理性的にコトを進めようとする努力は  
常日頃怠らないことを旨としている。

聞こうじゃないか。お前の言い分を。』

『だからな、お前様よ。』

コレじゃ。このミスドポイントカード。

儂が肌身離さず持つておるこのポイントカード。

ミスドに行く度にコツコツと加算をし続けてきた

このポイントカードがじゃ。

こともあろうに来月の30日でサービスが終了してしまう  
と言うではないか。

儂は耳を疑った。店員の娘から渡された告知のチラシを  
受け取った時、儂はヒザから崩れ落ちたわ。

あまりといえばあまりな話じゃ。

いや儂はミスドへの愛はこれっぽっちも

揺らいではおらんしこれからも変わらんと自負しておる。

今回の決定も経営上のスクラップアンドビルドを計ろうと

いう止むにやまれずなものであり、組織上層部の決断も苦  
渋に満ちたモノと推し量っておる。

だが、そうとは申せども長い間このカードに刻まれた  
ポイントには儂のミスドへの愛と共にその時々思い出が  
詰まっておるじゃ。

それをサービス終了と共に全て無に帰そうというのは  
あまりと言えばあまりに酷な話とは思わんか。

『しかし一度決定の告知がされてしまった以上

儂の力をもつてしてもそれを引つ繰り返すことは

あまりにも難しい。

いや、やろうと思えばそれは恐らく可能じゃろう。

大阪のミスド本社取締役会に乗り込んで

儂が土下座をすれば済む事じゃ。

(すまねーよ)

もしくはそうじゃな。

取締役ご一同の脳に手をつ突っ込んでちよちよいとやれば

まあ、なんとかなると思いがの。

(ならねーよ。ていうかすんな)

しかし儂もそんな横車を押すような愚行はしとうない。

儂もミスド愛を貫こうと心に決めた以上

決定に逆らうのは本意ではない。

(そんなもんあったのかよ)

そうと決まればお前様よ

ポイントサービス終了までの残り少ない時間を

名残惜しもう、精一杯分かち合おうという

儂の心情は察してあまりあるであろう。

ちなみにあと30ポイント程で

カラフルタンブラーとの交換が可能になるのじゃが

このような事情を理解した上はお前様も

きつとポイント加算に協力してくれると

儂は信じておる。

どうじゃ。分かってくれたかの?』

『知らねーよ。そんなこと(怒)』

真宵ちゃんて一本作りたいなあ。  
大雑把なネームは切っているんだけど。

本来はこの忍本さっさと上げて  
やるつもりだったんだが。

なんか今年一年は特に酷かったな。



『そーいや忍。おまえボク影から出て  
そんな勝手にウロウロとか出来るのかよ。  
ペアリングがどうか』

『ああ。別に可能じゃよ。もちろんまあ、  
怪異としての諸々の力というか  
能力は制限はされるがの。』

『そこらうろついたりする小児性愛者に拉致監禁されそうに  
なったりする危機とか、その程度なら自力でどうにか  
できるわい。』

『いや、そんな性的思考蔑視発言はいかなものかと  
思うぞ。ボクとしては。』

『あー。あの暴力陰陽師やゾンビ式神と出くわすと  
ちと、面倒じゃがな。』

『あー。なるほど。』

『そんなわけでお前様よ。今後ミスタードーナツ忍店へは  
お前様が同伴と言うということではよいかの。』

『いいわけねえだろ。』



西尾維新先生の作品に触れると  
自分がいかに物書きとして凡庸かということ  
を思い知らされます。  
決まりきった定石に縛られて  
自由な発想を知らず知らずのうちに  
押さえ込んでいるのでは…というか  
そんな劣等感に悶えつつも  
先の読めない面白さについつい  
ヤラレちゃうのです。

とにかく先が読めない。  
一般的な作品は大体は物語の筋というのが  
読めるんですが西尾作品に関しては  
それができない。

一般作品を車に例えます。  
車ならば道に沿って走ってれば  
途中の案内板とかナビに従っていけば  
そんなに迷うことはないのでは。

西尾作品はナビのない航空機のようなです。  
一度離陸したら何処に連れて行かれるか  
見当がつかない。

空港が見えてきてそこに降りるかと思えば  
また上昇してということがあったり  
そもそもきちんと着陸する気があるのかどうか。  
絶海の孤島に不時着なんて可能性さえある。

こんなジェットコースター気分が味わえるのも  
西尾作品ならではの。

化物語もセカンドシーズンまでできましたか。  
どうやら現在進行形の原作も全部アニメ化して  
くれそうですね。  
ありがたい限り。

こうなってくると現在暦物語まで読了してはいますが  
買って本棚にある終物語(上)に手を伸ばして  
いいものかどうか悩みます。

原作読まずにアニメが初めましての人たちの  
幸せさを考えると羨ましくて身もだえしてしまいます。

傾物語の初版発売は2010年の12月。  
三年待たされましたよ。

花物語は時系列的に後日談っぽい流れなので  
アニメ化するかどうか怪しいですが  
憑物語以降のファイナルシーズンがいつになるやら。

まあ気長に待とうか。  
そういえば傷物語ってどうなってんだろか。



西尾維新先生の作品に出会ったのは  
もうかれこれ10年近く前だと思います。

初めて手に取ったのが  
『君とぼくの壊れた世界』  
病院坂黒猫にゾッコンでした。

その後まあ普通に  
君ぼくシリーズから  
戯言シリーズに手を伸ばし  
もちろん化物語も拝読させて頂き  
リスカちゃん、刀語等も経て  
化物語のアニメ化も迎えたという  
至極まっとうな維新ファンの  
冴樹ではありますが

『絶対アニメ化なんて無理だよな』

維新作品のファンながら  
ずっと思っておりました。

西尾先生特有の  
言葉遊びというか日本語遊びが  
映像化に向かないだろうと  
勝手に思いこんでおりました  
アニメ化の報に接したときも  
大丈夫かいな?的な感情が  
強かったのを覚えております。

まあご承知の通り全くの杞憂に  
終わることになりましたが。

いままで同人誌のお題として  
維新作品を扱ったのは  
当誌が初めてです。

難しいんですよ。

微妙で繊細な世界観を  
崩したくないという怖さもありますし。

まあ結局はいつも通り  
勝手なエピソード捏造しての  
作品にはなりましたけど。

そういえば終物語まだ読んでないなあ。  
買ってはいるんですけど  
少し読むのが怖いみたいな。

この作業終わったらゆっくり読もうかと  
思っております。

それでは。

2013年  
X11/11  
冴樹高雄

発行 ろり絵号  
編集・構成 冴樹高雄  
発行日 2013年12月31日  
印刷 プリントマウス様

kibatora@gmail.com  
<http://kibatora.web.fc2.com/>